

国名 事業名 借入人 事業実施機関	大韓民国 化学研究用及び計量標準研究用資機材補強事業 大韓民国 (1) 化学研究部門：韓国化学研究所 (Korea Research Institute of Chemical Technology : K R I C T) (2) 計量標準研究部門：韓国標準研究所 (Korea Standards Research Institute : K S R I)	
交換公文締結 借款契約調印	1985年9月 1985年12月	
貸付承諾額 貸付実行額	2,700百万円 2,073百万円	
事業概要と基金分	<p>韓国は中進国から先進工業国の一員としての技術立国を目指すべく、科学技術政策として先端技術研究等に注力しており、この一環として第5次5か年計画（1982～1986年）において特定研究制度を導入し、精密化学工業技術をはじめとする特に優先度の高い6分野に対して重点的な研究開発投資を実施している。その中でも直ちに産業界の発展に結びつくと期待される精密化学工業分野の研究開発促進、及び計量標準技術の精度向上が緊急の課題となっていた。</p> <p>本事業は精密化学工業技術及び計量標準技術の研究開発を効果的に実施するために必要な研究機器を調達するものであり、基金借款対象は外貨分全額である。</p>	
主要計画/実績比較	(計 画)	(実 績)
○事業範囲 (プログラム) :		
・ K R I C T 研究機器導入	83種	87種
・ K S R I 研究機器導入	268種	239種
海外研修	144M/M	151M/M
○工期：(機器調達開始～調達完了)		
・ K R I C T 研究機器導入	1985年8月～1987年6月	1986年1月～1988年12月
・ K S R I 研究機器導入	1985年8月～1987年6月	1986年6月～1989年12月
海外研修	1985年8月～1987年12月	1986年6月～1989年12月
○事業費： 外貨	3,000百万円	2,073百万円
うち基金分	2,700百万円	2,073百万円
内貨	1,254百万円	964百万円
合計	3,376百万円	2,265百万円
換算レート	¥1=3.32 円	¥1=5.00 円

総合評価

(1) 事業範囲：KRICT・KSRIにおいて調達品目及び仕様の一部変更があったが、これは時間の経過に伴う研究機器の陳腐化回避、国産代替可能な機器及び使用頻度の少ない機器の取消し等調達機器の見直しを行った結果であり、計画時からの状況の変化に適切に対応したもので問題は無いと考えられる。

(2) 工期：研究機器の調達完了を本事業の完成時期とすると、KRICTで1年半、KSRIで2年半の遅延が生じている。またKSRIにおける海外研修についても、機器導入の遅延に伴い、計画比で2年の遅延となっている。機器調達の遅延は、スコープの項で述べたように、時間の経過に伴う機器の陳腐化回避等のための調達機器の見直し等が原因であり、これに伴う工期遅延についてもやむを得なかったものと判断される。

(3) 事業費：計画に比べて、外貨分実績は31%のコストアンダーラン、内貨分実績も23%のコストアンダーランとなった。外貨分が大幅なコストアンダーランとなった原因は、機器調達期間中に円高が進行したことによる円の価値（購買力）増大によるものである。（尚、当初外貨分の一部は韓国側が負担する予定であったが外貨分実績が大幅なコストアンダーランとなったため、結果的には基金借款が本事業の外貨分全額をカバーする形となった。）内貨分については、元々、関税他の諸掛かりを見込んでいたものであり、外貨分実績額が減少した関係で、連動して減少したと思われる。以上より、事業費について特段の問題は見受けられない。

(4) 事業実施体制：事業範囲の変更・工期の遅延が生じたものの、これらは上述の通りやむを得なかった事情によるものであり、実施機関は機器調達期間の短縮のために努力していることなどを考慮すると、実施体制に特段の問題は無い。

(5) 運営・維持管理：実施機関の運営・維持管理体制に問題は無く、研究機器の運用維持管理状況も良好である。また実施機関の収支状況についても特段の問題は無い。

本事業は、実施機関の研究活動の活性化・研究水準の向上に貢献しており、化学研究部門においては韓国精密化学工業の発展及び技術水準の向上に、計量標準研究部門においては韓国産業技術の精度向上等に寄与していると思われる。

事業効果

- ・ KRICT、KSRIの研究活動の活性化
- ・ 研究水準の向上
- ・ 産業セクター（精密化学工業等）発展
- ・ 韓国科学技術レベルの向上

(備考)

評価報告日：1995年4月